神埼市水源地域振興計画 (基本構想) (素案)



令和3年3月 神埼市水源地域振興対策検討委員会

※計画内の施策は、住民ワークショップ、検討委員会での意見を踏まえ整理しています。 すべて実施されるものではなく、水源地域の振興への参考としてまとめたものであります。

目 次

第1章	神埼市水源地域振興計画策定の目的と趣旨	1
1 - 1 1 - 2 1 - 3	計画策定の目的と対象範囲	2
第2章	城原川ダム建設予定地域の概況	6
2 - 1 2 - 2	城原川ダム建設予定地域の概要 城原川ダム関連事業の概要1	
第3章	住民ニーズの把握1	8
3 - 2 3 - 2	住民アンケート	9 9 9
第4章	現状と課題の整理2	9
第5章	地域の将来像・将来像の方針3	2
5 - 1 5 - 2	地域の将来像3 地域の将来像の方針3	

第1章 神埼市水源地域振興計画策定の目的と趣旨

1-1 計画策定の目的と対象範囲

(1)計画策定の目的

城原川ダムについては、平成18年7月策定の「筑後川水系河川整備計画」により城原川の洪水調整を行うダムとして計画されており、平成28年7月には、「事業継続」の決定がなされ、平成30年より「建設段階」への移行がなされているが、城原川ダム建設に伴い水没予定地周辺地域の生産機能及び生活環境などが著しい影響を受けることが考えられる。

神埼市水源地域振興計画(以降、本計画と称す)では、城原川ダム水源地域及び上流域の地域振興を図ることを目的に、委員会やワークショップでの検討を踏まえ、城原川ダムに係る水源地域振興に関する基本構想及び地域振興の施策を取りまとめたものである。

(2)計画の対象

城原川ダム建設に伴い生産機能及び生活環境などが著しい影響を受けることが考えられる水没予定地周辺地域及びその上流域を主な対象範囲とし(図 1-1 城原川建設予定地周辺地域参照(以下、ダム水源地域と称す))、現状及び課題等を踏まえた施策を検討する。

また、対象範囲のみで地域振興の施策の実施は困難であることから、施策の実施等に際しては、神埼市 全域で取り組むこととする(図 1-2 城原川流域図参照)。



図 1-1 城原川建設予定地周辺地域



図 1-2 城原川流域図

(3) 計画策定の着眼点

本計画では、ダム完成までの期間が長期にわたること、水源地域の少子高齢化等が著しいことから、ダム整備やダム水源地域を中心に考えるのではなく、「ダム水源地域の生産機能及び生活環境の現状と課題を踏まえ、地域コミュニティの維持を目指した振興施策において、城原川ダム事業をどのように反映するか」という視点から、地域の現状や課題を踏まえ、ダム完成までの期間を踏まえたロードマップを取りまとめている。

1-2 検討までの流れ

(1) 計画策定のスキーム

本計画の策定に際しては、①水源地域の意向を十分に反映しながら、その基本方針、施策・取組、推進 体制などを組織間で合意形成しながら策定していくことが求められる。さらには、②計画策定と同時にそ の方針に基づき、具体的な施策や取組が円滑かつ活発に起動し、推進されていくことが求められる。

このような計画に求められる2つの要請を具体化するため、行政機関、学識者、住民組織、活動団体、教育機関、関連団体の代表者からなる「神埼市水源地域振興対策検討委員会」にて必要な事項を検討する。また、地域住民や活動団体など、多様な視点からの意見集約を図るために、「神埼市水源地地域振興対策検討ワークショップ」を設置して、テーマに即して活発な意見交換を図り、集約した意見を検討委員会にフィードバックしながら計画を取りまとめた。

さらに、計画策定後の具体的な施策や取組が円滑かつ活発に起動し、推進の機運を高めるため、地域住 民向けの水源地域振興フォーラムを実施し、広く情報発信に努めた。

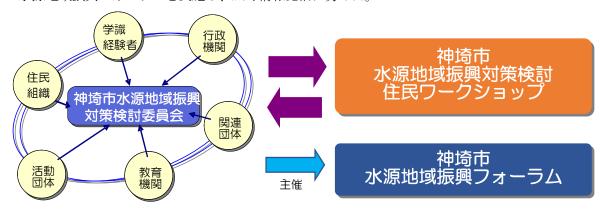
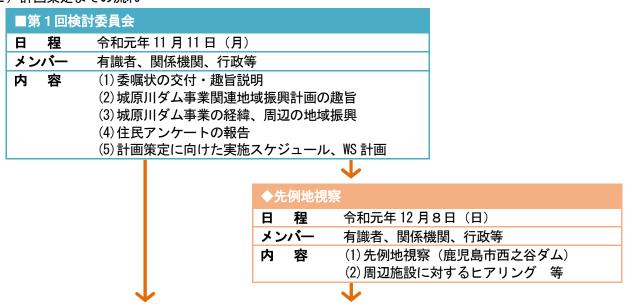


図 1-3 本計画策定のスキーム

(2) 計画策定までの流れ



◆第1回住民ワークショップ

日 程 令和2年1月24日(金)

メンバー 地区代表者、地域づくり団体、行政等 (計 75 名)

内容

- ・本事業の目的、過年度調査結果の報告(アンケート結果)
- ・地域の魅力と課題の整理
- ・現状と課題を踏まえた地域振興のあり方の検討



◆第2回住民ワークショップ

日 程 令和2年2月14日(金)

メンバー 地域代表者、地域づくり団体、行政等 (計 57 名)

内 容

- ・現状と課題を踏まえた地域振興のあり方の協議
- 地域の将来像の検討



■第2回検討委員会

日 程 令和2年7月29日(水)

メンバー 有識者、関係機関、行政等

内 容

- (1)地域の課題整理
- (2)地域の将来像の検討
- (3)ロードマップ(案)の検討
- (4) 今後のスケジュール



◆第3回住民ワークショップ

日 程 令和2年10月2日(金)

メンバー 地区代表者、地域づくり団体、行政等 (計34名)

内 容・将来像を実現させるための取組及び実施体制



◆地域づくりフォーラム

日 程 令和2年12月20日(日)

会場 中央公民館 講堂

メンバー 有識者、関係機関、地域づくり団体、行政等

内 容

- (1) 基調講演 (NPO 法人ひろしまね 安藤氏)
- (2) 事例報告会 ※地域外の団体の活動事例紹介(3団体)
- (3) 意見交換会 (パネルディスカッション)

※水源地域における地域活性化についての意見交換



■第3回検討委員会

日 程令和3年1月15日(金)メンバー有識者、関係機関、行政等

内 容 (1)ワークショップの実施報告

- (2)水源地域の将来像の検討
- (3)ロードマップ(案)の検討



■第4回検討委員会

日 程 令和3年3月16日(火)

メンバー 有識者、関係機関、行政等

内 容 (1)水源地域の将来像・ロードマップ(案)の検討

- (2)推進体制の設定
- (3) 神埼市水源地域振興計画(基本構想 素案)の検討
- (4) 今後のスケジュール

(3)検討委員※組織名(佐賀大や各団体の名前)を入れるか協議

城原川ダムに係る水源地域の振興に関する基本構想及び振興計画の策定に関し、必要な事項を検討するため、神埼市水源地域振興対策検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。委員会は、城原川ダムに係る水源地域振興に関する基本構想及び振興計画の策定にあたり次に掲げる事項について協議及び検討し、その経過及び結果を市長に報告するものとする。

- (1) 基本構想に関すること。
- (2) 振興計画に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、城原川ダムに係る水源地域振興に関する基本構想及び振興計画の策定に関し必要な事項に関すること。

●神埼市水源地域振興対策検討委員会名簿

団体名(職名)	人数
学識経験を有する者	2
市議会議員	1
城原川ダムに関わる住民団体を代表する者	3
区長会を代表する者	3
神埼市商工会を代表する者	1
JAさが神埼地区女性部脊振支部を代表する者	1
脊振育友会を代表する者	1
神埼市観光協会を代表する者	1
高取山公園農産物出荷部会を代表する者	1
まちづくり団体を代表する者	3
国土交通省 佐賀河川事務所長	1
佐賀県 県土整備部 城原川ダム等対策室長	1
産業建設部長	1
産業建設部 農林水産担当理事	1
総務企画部長	1
脊振支所長	1
公募により選出する者	1
	2 4

●事務局

団体名(職名)	人数
産業建設部	1
産業建設部ダム対策課	3

1-3 本計画の位置づけ

本計画では、城原川ダム建設に伴い生産機能及び生活環境などが著しい影響を受けることが考えられる 水没予定地周辺地域及びその上流域を主な対象範囲とした地域振興計画の位置付けて取りまとめたもので ある。

策定に際しては、神埼市の上位計画にあたる、第2次神埼市総合計画、神埼市総合戦略、神埼市人ロビジョンに加え、対象範囲全域を含む脊振地区を対象とした、過疎自立促進計画などの関連計画も踏まえて取りまとめている。

対象とした計画一覧及びその連関図を以下に示す。

		資料名	策定年月	概要
		第2次神埼市総合計画 (平成29年市民アンケート調査含む)	平成 30 年 3 月	第1次神埼市総合計画の成果や課題を踏ま えた市の総合計画
	市全	第2次神埼市国土利用計画	令和3年3月策定	
体	第 2 期神埼市総合戦略 2020-2024	令和2年3月	まち・ひと・しごとを創生するための人口 ビジョンを踏まえた第2期総合戦略	
		神埼市人口ビジョン	平成 27 年 9 月	まち・ひと・しごとを創生するための市の 人口ビジョン
	脊振地区	神埼市過疎自立促進計画	令和3年度策定予定	過疎地域の現状対する課題分析と今後の見 通し

表 1-1 対象とした計画の一覧

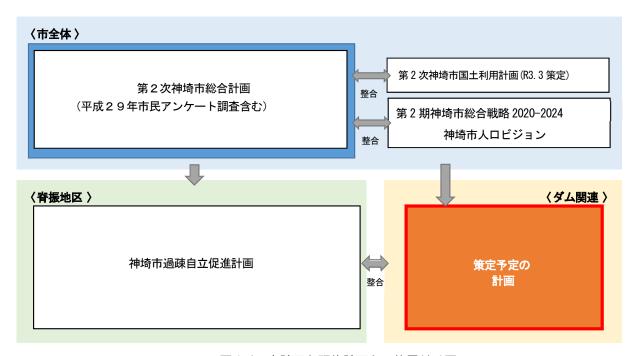


図 1-4 本計画と既往計画との位置付け図

第2章 城原川ダム建設予定地域の概況

2-1 城原川ダム建設予定地域の概要

(1) 概要

1)位置

佐賀県東部に位置し、南北に細長い神埼市において、ダム水源地域は、市の北部から中央部かけて位置している。ダム水源地域は、西部を佐賀市、北部を福岡市、東部を吉野ヶ里町と接している。また、脊振町は脊振山をはじめ、自然豊かな地域となっている反面、神埼町は市の中心街に近く、市内の都市機能が集約している地域となっており、ダム水源地域は南北で地域特性が異なる地域となっている。

図 2-1 ダム水源地域位置図(出典:神埼市観光協会 HP)

2) 歴史

神埼市は、平成18年3月に3つの町村

(神埼町、脊振村、千代田町)が合併してできた自治体であり、ダム水源地域はその中の脊振町及び神 埼町の6地区(仁比山、朝日、小渕、的、三谷、志波屋)から成る地域である。

中でも脊振町(旧脊振村)は、脊振山一帯を「脊振千坊」と称され、かつて山岳仏教で名高い土地であったことから、石塔などの痕跡を見ることができる。また、山伏の修行に由来する火焚き行事「採燈大護摩供」が現在もなお伝統行事として引き継がれている。

3) 交诵

3市町に囲まれているダム水源地域には、各市町に続く県道21号(三瀬神埼線)や県道46号(中原三瀬線)、県道51号(佐賀脊振線)が整備されている。これにより、市内だけでなく、市外の他地域との交流・連携が可能となり、人口の流入、産業の活性化、観光振興に寄与することが見込まれている。

一方、鉄道網は整備されておらず、少子高齢化が進行するダム水源地域では、自動車を運転できない住民における日常生活の利便性の欠如が懸念されている。昭和自動車株式会社による三瀬神埼線路線バス及び脊振町通学バスの運行が令和2年3月末で廃止されたことを受け、地域住民の通学、通院及び買い物等に欠かせない重要な移動手段であるという認識のもと、関係機関等と地域公共交通の維持・確保に向けた協議を行い、令和2年4月1日からデマンドタクシーによる新たな運行が実施されている。



図 2-2 路線バス・デマンドタクシーの運行ルート

4)産業

ダム水源地域における産業別就業者の割合(平成17年)は一次産業が最も高くなっており、農林業が 主体となっている。

農業においては、しいたけ、干し柿、高冷地野菜などが栽培されている。しかし、平坦な地域がない ことやイノシシ被害により兼業農家が大半となっており、これら生産物を特産品として売り出すために は生産量不足が課題となっている。

林業においては、外国産材の輸入による国産材の需要減少及び価格の低下など、厳しい経営状況を強いられているが、林道の開設、改良、舗装など、林業振興事業を重点的に進めている。

これら主要産業の課題として、事業を担っていく後継者不足や兼業化が挙げられており、雇用確保や企業誘致のための施策が必要となっている。

5) 観光

脊振町は、脊振山系における豊かな自然を生かした遊歩道や自然公園が整備されており、来客者の憩いの場となっている。神埼町においても、九年庵や仁比山神社などの歴史的建造物や、高取山公園の農産物直売所やわんぱく公園など、幅広い世代に好まれる観光資源が多く点在している。

また、神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、脊振町の「わんぱくまつり」など、地域の特性を活かしたイベントも恒例行事となっており、観光振興に寄与している。

一方、渓流祭りや釣り大会など、現在中止となっているイベント、また脊振交流センターを活用した 拠点づくりや、人材を広く発掘し、指導者を育成していくことなど、再評価やPRの検討が必要な観光資 源など、観光振興における開拓・改善の余地も大いに残されている。



図 2-3 長崎街道かんざき宿場まつり (出典:第2次神埼市総合計画)



図 2-4 脊振町わんぱくまつり (出典:第2次神埼市総合計画)

(2) 城原川ダム建設予定周辺地域の概況

城原川ダム建設予定周辺地域の位置図を以下に示す。

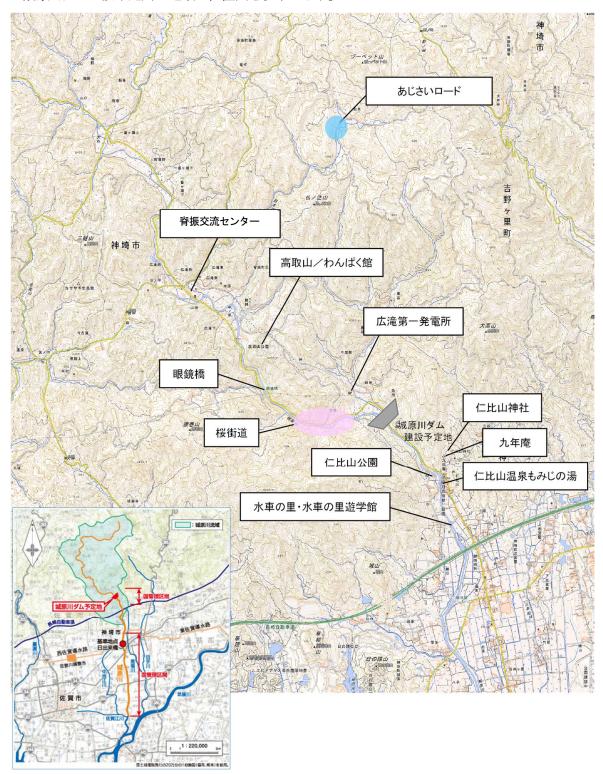


図 2-5 城原川建設予定地周辺地域 位置図 (広域)

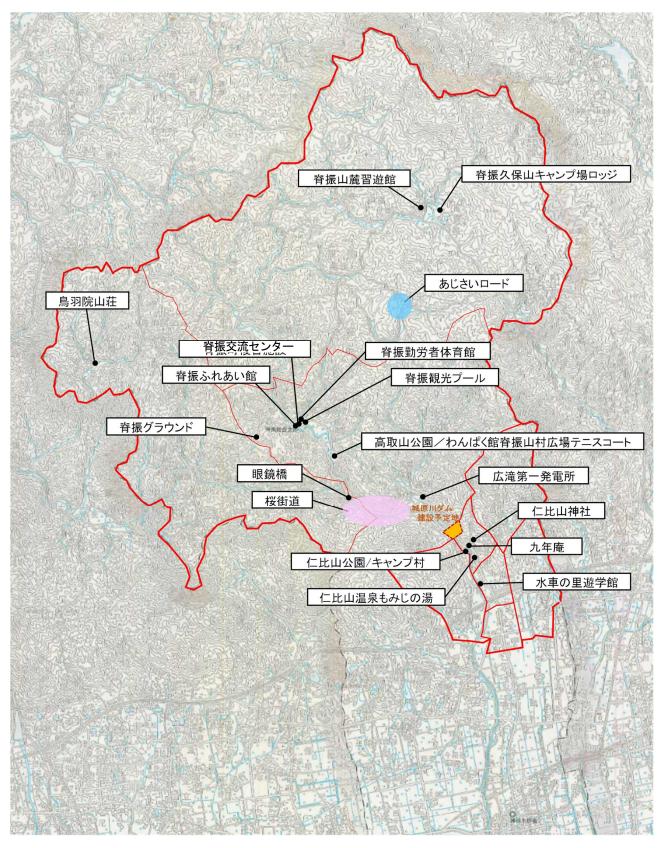


図 2-6 城原川建設予定地周辺地域 位置図 (詳細 赤線区域が計画対象地)

(3) 城原川ダム建設予定周辺地域の地区特性(人口)

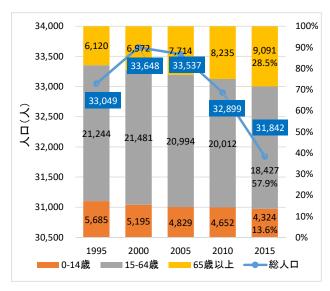
1) 水没予定地域周辺の人口ビジョン>総人口及び年齢3区分別の人口の推移(高齢化含む)

①神埼市

- ・総人口は、2000 (平成 12) 年の 33,648 人をピークに減少傾向に転じ、2015 (平成 27) 年は、31,842 人となり、人口減少が進んでいる。
- ・減少を続けている「年少人口」は、1995 (平成7) 年の5,685人から、2015 (平成27) 年には、4,324 人まで減少し、この期間における減少率は24.0% (1,363人)で、少子化の傾向が顕著となっている。
- ・増加傾向にあった「生産年齢人口」は、2000(平成 12)年の 21,481 人をピークに減少傾向に転じ、 2015(平成 27)年は、18,427人となり、「生産年齢人口」約 2.03人で「老年人口」1人を支えている ことになる。
- ・「老年人口」は増加傾向にあり、1995 (平成7)年以降、「年少人口」を数、割合とも上回るようになり、 2015 (平成27)年には、9,091人と「年少人口」の2倍を超え、1995 (平成7)年の6,120人と比較す ると増加率は48.5% (2,971人)で急速に高齢化が進んでいる。

②ダム水源地域

- ・総人口は、1995 (平成7) 年以降減少し続け、3,900 人から、2015 (平成27) 年は、3,261 人となり、この期間における減少率は16.4% (639人)で、人口減少が進んでいる。
- ・減少を続けている「年少人口」は、1995(平成7)年の588人から、2015(平成27)年には、376人まで減少し、この期間における減少率は36.1%(212人)で、急速に少子化が進んでおり、構成比は11.5%と神埼市全体の13.6%より少ない。
- ・「生産年齢人口」も同様に減少しており、1995(平成7)年からの減少率は25.2%(607人)である。 構成比は55.2%と神埼市全体の57.9%と同程度である
- ・「老年人口」は増加傾向にあり、1995(平成7)年からの増加率は、20.0%(181人)である。構成比は33.2%と神埼市全体の28.5%より多い。



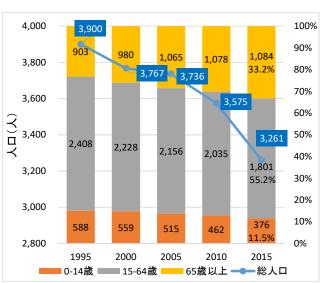


図 2-7 年齢3区分別の人口の推移(左:神埼市 右:ダム水源地域)

出典:国勢調査 小地域推計

2) 産業(3部門)別就業者数の推移(産業人口)

①神埼市

- ・産業 (3部門) 別の就業者数の推移をみると、「第1次産業」では、1995 (平成7) 年の2,208 人から2015 (平成27) 年には1,430 人と約35%減少している。
- ・「第2次産業」でも、5,527人から4,224人に減少している一方、「第3次産業」では8,990人から10,183人までと約13%増加している。また、2010(平成22)年から2015(平成27)年は人口減少に伴い、すべての産業人口にて減少している。

②ダム水源地域

- ・産業 (3 部門) 合計の就業者数は、1995 (平成7) 年以降減少し続け、1,998 人から、2015 (平成27) 年は、1,616 人となり、この期間における減少率は19.1% (382人) で、人口減少が進んでいる。
- ・産業 (3 部門) 別の就業者数の推移をみると、「第 1 次産業」では、1995 (平成 7) 年の 399 人から 2015 (平成 27) 年には 250 人と約 37%減少している。
- ・「第2次産業」でも、611 人から 401 人に減少している一方、「第3次産業」では 988 人から 965 人まで とほぼ同等である。
- ・3部門別の構成比では、第1次産業は神埼市では9.0%に対し、ダム水源地域では15.5%と1次産業の割合が高い。

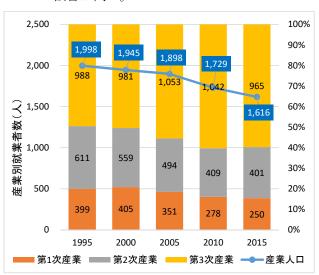




図 2-8 産業 (3部門) 別就業者数の推移 (左:神埼市 右:ダム水源地域)

出典:国勢調査 小地域推計(年齢不詳は除く)

3) 将来人口の推計と分析

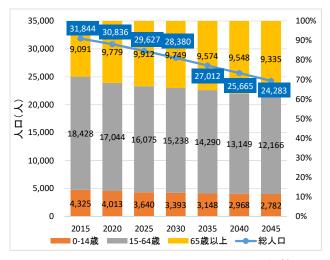
神埼市の将来人口の予測は、「神埼市人口ビジョン」に掲載されている。これまでの自治体の人口ビジョンについては、自治体全域での推計に留まっていたが、国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市開発研究室が開発した「小地域(町丁・字)を単位とした将来人口・世帯予測ツール」を用いて、対象のダム水源地域においても、上述の通り、「小地域(町丁・字)単位」にて人口の推移を取りまとめた。

今後のダム水源地域の人口の推移についての考察は以下のとおりである。

① 神埼市

・両推計ともに大きく変わらず、社人研のパラメータの総人口は、基準年の2015(平成27)年以降は減少し続け、30年後の2045(令和27)年は、24,283人となり、この期間における減少率は23.7%(7,561人)で、1/4程度人口が減少する推計結果となった。

- ・総人口の減少は避けられないものの、人口ビジョンにまとめられているように、人口減少を抑制する ことにより、人口の若返りが期待できる。
- ・加えて、高齢者の健康寿命を延ばし、高齢期も就業できるような「健康長寿社会」が実現できれば、 更なる改善を見込むことができる。



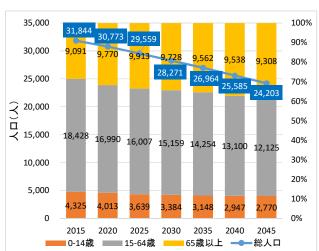
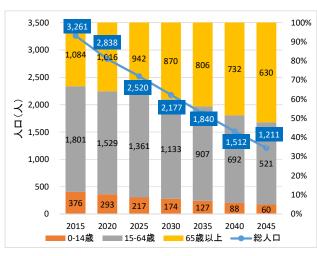


図 2-9 年齢3区分別の推計人口の推移

(左:小地域毎のパラメータ 右:社人研のパラメータ(全市))

② ダム水源地域

- ・小地域毎のパラメータの総人口は、基準年の2015 (平成27) 年以降は減少し続け、30年後の2045 (令和27) 年は、1,211人となり、この期間における減少率は62.9% (2,050人) で、半減以上人口が減少する推計結果となった。
- ・また、社人研のパラメータ(全市)の総人口も、同様に基準年の2015(平成27)年以降は減少し続けるものの、その減少率は、小地域毎のパラメータより低く、30年後の2045年は、2,154人となり、この期間における減少率は33.9%(1,107人)で、1/3の人口が減少する推計結果となった。
- ・先述したとおり、ダム水源地域では、経年の人口推移から若年層の流出が大きい。総人口の減少は避けられないものの、今後の地域振興等の計画において、これらの人口流出を留めることが、人口減少を緩和させる要因になると考えられる。



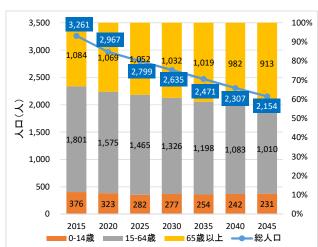


図 2-10 年齢3区分別の推計人口の推移

(左:小地域毎のパラメータ 右:社人研のパラメータ(全市))

2-2 城原川ダム関連事業の概要

(1) 概要

1)流域の概要

①筑後川

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡の瀬の本高原に発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において、くじゅう山地から流れ下る玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を流下し、その後、夜明峡谷を過ぎ、小石原川、佐田川、巨瀬川及び宝満川等多くの支川を合わせながら、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、早津江川を分派して有明海に注ぐ、幹川流路延長143km、流域面積2,860km²の九州最大の一級河川である。



図 2-10 筑後川流域図 (出典:城原川ダム事業の検証に係る検討報告書)

②城原川

城原川は、その源を佐賀県神埼市の脊振山に発し、途中支川を合わせながら山間部を流下し、仁比山付近より扇状地形を形成して平野部の神埼市の市街地を南下し、筑後川右支川の佐賀江川の 2.0km 点に合流している。

その流域は、佐賀市、神埼市(脊振町、神埼町、千代田町)の行政区域内にあって、幹川流路延長31.9km、流域面積64.4km²の河川である。このうち、佐賀江川との合流点より9.1kmまでの区間を国土交通省が、それより上流の区間を佐賀県が管理している。

流域の土地利用は約61%が山地、約39%が平野となっており、流域内には約1万人の人々が生活している。

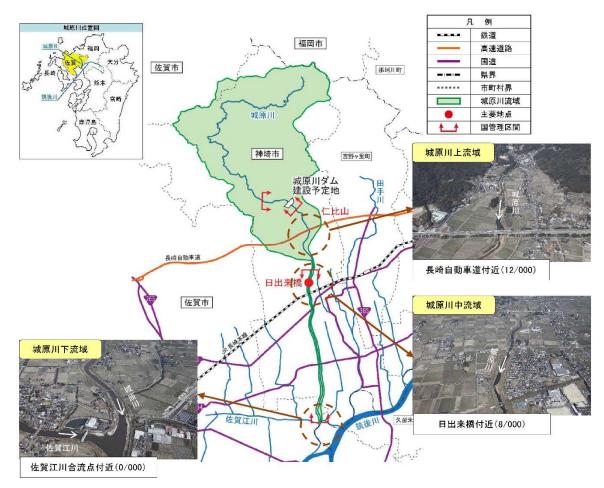


図 2-11 城原川流域図 (出典:城原川ダム事業の検証に係る検討報告書)

2) 城原川ダムの概要

①目的

- 洪水調節
- ・流水の正常な機能の維持

※城原の日出来橋において、河川整備基本方針に対応した 毎秒 690m3のうち毎秒 360m3の流量軽減を図る。不特定 の確保の必要性については、さらに調査・検討すること っている。



図 2-12 城原川ダムの目的(出典:佐賀河川事務所ホームページ)

城原川ダムの治水上の有効性



●城原川は、流域のほとんどを山地が占め、その形状が漏斗型であることから、ダムによる洪水調節が効果的です。

●さらに、地形上・地質上、ダムの適地があります。

他の治水対策と比較して有利

流域	面 積(km²)	面積割合(%)
城原川ダム上流域	42.5	86.2
城原川ダム下流域	6.8	13.8
城 原 川 流 域 (日出来橋上流域)	49.3	100.0

図 2-13 城原川ダムの治水上の有効性(出典:佐賀河川事務所ホームページ)

②名称及び位置

・名称:城原川ダム

•位置:筑後川水系城原川 左岸 神埼市神埼町 右岸 神埼市脊振町

③ダムの諸元

城原川ダムの諸元を以下に示す。

表 2-1 ダムの諸元 (出典: 筑後川水系河川整備計画 (変更))

項目	現計画
型式	重力式コンクリートダム
堤高	約 60 m
堤頂長	約 330m
集水面積	約 42.5km²
総貯水容量	約 355 万 m³
有効貯水容量	約 350 万 m³

④事業経緯

城原川ダム事業の経緯を以下に示す。

表 2-2 事業の経緯

(出典:城原川ダム事業の検証に係る検討報告書、第6回筑後川学識者懇談会(資料1))

年月	計画の変遷等
昭和 46 年 4 月	城原川ダム予備調査に着手
昭和 54 年 4 月	城原川ダム実施計画調査に着手
平成 13 年 3 月	佐賀東部水道企業団の城原川ダム利水不要の決議
平成 15 年 10 月	筑後川水系河川整備基本方針策定
平成 15 年 11 月 ~平成 16 年 11 月	城原川流域委員会(全13回開催)
平成 16 年 12 月 ~平成 17 年 5 月	城原川首長会議(全 11 回開催)
平成 17 年 6 月	佐賀県知事臨時記者会見「ダム手法によらざるを得ない」 佐賀県が国土交通本省及び九州地方整備局へ「流水型ダム検討」の申し入れ
平成 17 年 11 月	九州地方整備局長より佐賀県知事へ提案ダム(流水型)への技術的検討結果報告
平成 18 年 7 月	筑後川水系河川整備計画策定(城原川ダムを含む)
平成 21 年 12 月	検証対象ダムに区分
平成 22 年 12 月	城原川ダム事業の関係地方公共団体からなる検討の場(第1回準備会)
平成 26 年 10 月	城原川ダム事業の関係地方公共団体からなる検討の場(第2回準備会)
平成 27 年 5 月 ~平成 28 年 5 月	城原川ダム事業の関係地方公共団体からなる検討の場(全4回)
平成 28 年 7 月	ダム検証に係る対応方針「継続」決定 城原川ダム事業継続の方針決定
平成 29 年 5 月	城原川改修・城原川ダム建設促進期成会の設立
平成 30 年 3 月	筑後川水系河川整備計画(変更)
平成 30 年 4 月	建設段階へ移行

第3章 住民ニーズの把握

3-1 住民ニーズ調査の概要

本計画策定に対し、地域住民の意向の把握や、事業の理解を深めていただくために、①地域住民アンケート、②住民ワークショップ、③地域づくりフォーラムなど多様な手法を用いて意見を集約して、本計画に反映させている。

実施した取り組み、実施時期及び目的(狙い)は以下の通りある。次節にそれぞれの実施取組みの詳細を示す。

表 3-1 住民ニーズ調査の概要

実施取組み	実施時期	対象及び目的(狙い)		
住民アンケート	平成 31 年 2月 22 日~ 3月 14 日	・ダムの水没予定地域を含む神埼市全体の将来を見据えた地域についての意見を収集・対象者:城原川ダム建設予定地周辺地域として、脊振町全行政区、神埼町仁比山地区、小渕地区、的地区、三谷地区、志波屋地区、朝日地区		
住民ワークショッ プ	■第1回 令和2年1月24日 ■第2回 令和2年2月14日 ■第3回 令和2年10月2日	・城原川ダム建設に伴うダム周辺地域の地域振興を図るための「神埼市水源地域振興計画」策定への意見集約 ・城原川ダム建設に伴うダム周辺地域の生産機能及び生活環境などへの影響を緩和するための地域振興策に市民の皆様の意見を計画に反映するため、地域の将来像をみんなで語る目的で実施・主な検討内容は P-22 参照・対象者:神埼市民		
地域づくりフォー ラム	令和2年12月20日	・市民の方への城原川ダム建設に伴う地域振興対策についての情報発信及び城原川水源地域における地域活性化への機運を高め、今後における水源地域振興計画の策定に反映することを目的とする。 ・対象者:神埼市民		

3-2 住民アンケート

3-2-1 アンケートの企画・設計

(1) アンケートの目的

城原川ダム予定地周辺のまちづくりを検討するにあた地域の皆様の貴重なご意見を伺うことを目的に実施し、川ダム予定地周辺のまちづくりを検討する上で参考と回答を取りまとめた。

(2) アンケート調査概要

・調査対象者:城原川ダム建設予定地周辺地域における 歳以上の方、1,200名を対象

·調査期間:平成31年2月22日

~3月14日

・調査方法:郵送による発送、郵送・神埼市役所本庁 脊振支所設置の回収箱による回収

・有効回答数:467名・有効回答率:38.9%

(3)調査項目

アンケートの目的に沿って調査設計し、下表の調査項目で調査票を作成

表 3-2 アンケート設問と調査項目

	Д	3-2 アンソートは向と調査項目
分類	設問	調査項目
1回答者	問1 回答者自身	性別/年齢/居住地/職業/居住者/お住まいの状況/現住所の居住年 数
者	問2 住みやすさ	居住地/神埼市全体
自	問3 愛着	居住地/神埼市全体
自身	問4 居住地への定住意欲	居住地への定住意欲/選択肢に対する理由(自由回答)
2地域の	問5 地域の満足度	下記項目における満足度とその理由(自由回答) (1)働く場所/(2)通勤、通学/(3)子育て、教育の環境/(4)保険、医療体制/(5)高齢者・障がい者支援/(6)食料や日用品の買い物/(7)公共施設や公共サービス・生活環境の整備/(8)文化・スポーツ・レジャー/(9)親族(親や子など)/(10)地域の人たちとの人間関係/(11)自然環境/(12)まちのイメージ/(13)治安/(14)住宅事情/(15)交通の利便性/(16)その他
3	問6 ダム建設の関心意欲	ダム建設に対する関心意欲
3城原川ダム	問6-1 ダム建設の関心事項	問6の関心意欲に対する項目(複数回答)/選択肢に対する理由(自由回答)
Ź	問7 ダム建設の伴う知りたい情報	ダム建設に伴い、知りたい情報(複数回答)
建設事業	問8 地域活性化への期待	ダム建設に伴う地域活性化対策として期待される項目(複数回答)/選択 肢に対する理由(自由回答)
業	問9 地域振興に関する意見	地域振興に関する意見(自由回答)

3-2-2 アンケート結果

(1) アンケート結果のまとめ

本アンケート調査の目的である「城原川ダム予定地周辺のまちづくり」の検討に際し、当該アンケート

結果から、アンケート設計時に留意した地域の現状と課題及び城原川ダム建設事業に関する意見を取りまとめた。

取りまとめた意見から、①地域活性化に向けた施策の検討、②住民に対するダム建設に関する情報提供・ 共有、という2点の城原川ダム予定地周辺のまちづくりにおける課題や方向性が表面化された。

これら 2 点の課題や方向性における詳細を以下に示す。また、詳細な調査結果については巻末資料に示す。

<地域活性化に向けた施策の検討>

地域の現状や課題を把握するアンケート結果から、地域活性化に向けた施策の策定における留意すべきカテゴリを有益な点及び改善点に大別し、抽出した。

抽出したカテゴリとその内容を以下に示す。

表 3-3 施策策定に向けた有益な点及び改善点

	② ○ ○ ルス東及に同じた有血な点及び以音点			
	カテゴリ	内容		
有益な点	自然環境·治 安	【現状】 居住地あるいは神埼市に対し、自然環境や治安の面から住みやすさや愛着を感じている住民が多い。 【課題・方向性】 今後も、水や森林といった自然環境の保全や安全安心なまちづくりに配慮していく必要がある。		
改善点	交通	【現状】 通勤・通学や買い物等における交通の利便性に不満の声が挙がっている。また、ダム建設による地域活性化対策に期待するものとして、「交通アクセスの改善」が過半数を超えている(ダム上流域は7割以上)。具体的には県道の歩道整備、道路の付替、道路の幅員増加、冬道対策等、道路整備に対する住民の意見が多く挙がっている。また、通勤・通学や買い物、通院等において、車がないと動けないという状況であり、バスの運行本数を増やしてほしいといった公共交通機関の整備に関する意見も挙がっている。 【課題・方向性】 上記意見を踏まえ、道路や公共交通機関の整備等、交通を重視した施策の検討が求められている。		
	買い物	【現状】 食料や日用品の買い物における満足度が低い。特に、ダム上流域における住民の満足度が低くなっている。満足度が低い理由には、スーパーやコンビニエンスストア等の商店がないことや、近隣に商店がないため交通弱者にとって買い物は困難であるといった理由が挙がっている。 【課題・方向性】 小売業等の企業の誘致や地場産品の販売所設置等、商店を増やす検討が必要である。また、「交通」のカテゴリで示したとおり、交通弱者の買い物が制限されない交通の利便性向上への対策が求められる。		

<住民に対するダム建設に関する情報提供・共有>

城原川ダム建設事業に関する意見を把握するアンケート結果から、住民に対するダム建設に関する情報 提供及び共有における留意すべきカテゴリを抽出した。

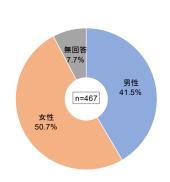
抽出したカテゴリとその内容を以下に示す。

表 3-4 住民に対するダム建設に関する情報提供及び共有における留意すべきカテゴリ

カテゴリ	内容
ダム建設の概	【現状】
要・状況	ダム建設に関する住民説明が不足しているという意見が多く挙がっている。
	【課題・方向性】
	ダム建設の概要や計画、現在の進行状況等、住民に情報提供していく必要がある。
居住地域への	【現状】
配慮	ダム上流域、ダム周辺、ダム下流域の居住地域によって、ダム建設に関心事項が異なっ
	ている。例えば、ダム下流域は城原川の洪水に対するダムの役割、ダム周辺はダム建設計
	画の概要・ダム事業の進歩状況などである。
	【課題・方向性】
	これら関心事項の相違を考慮した情報提供が求められる。

(2) アンケート結果(基本属性)





〈年齢〉



3年以内, 3.9%

3年以上5年未満,

1.7%

5年以上10年 未満, 7.3%

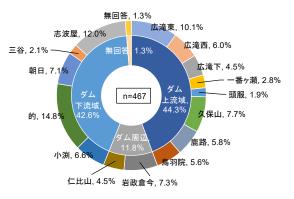
10年以上20年

未満, 16.9%

〈居住地〉

〈現住所の居住年数〉

無回答, 1.3% -



30年以上, 55.0% 20年以上30年 未满, 13.9%

図 3-2 回答者の基本属性

3-3 住民ワークショップ

3-3-1 住民ワークショップの企画

(1) 神埼市水源地域振興対策検討 住民ワークショップの概要

神埼市水源地域振興対策検討 住民ワークショップの概要は以下の通りである。

表 3-5 住民ワークショップの概要

	区分	概要
主	催	神埼市水源地域振興対策検討委員会
目	的	城原川ダム建設に伴うダム周辺地域の地域振興を図るための「神埼市水源地域振興計画」
		策定に対し、城原川ダム建設に伴うダム周辺地域の生産機能及び生活環境などへの影響
		を緩和するための地域振興策に市民の皆様の意見を計画に反映するため、地域の将来像
		をみんなで語る目的で実施するものである。
場	所	城原川ダム建設予定地周辺及び城原川ダム上流域 (別紙図面参照)
参	加 者	区長会、ダム関係住民団体、公共的団体、一般公募、行政など
		事務局(神埼市、中央開発株式会社)
プロ	グラム	1回あたり2時間程度、3回実施
	第1回	テーマ:城原川ダム周辺地域及び上流部の地域の魅力と課題の整理
	第2回	テーマ:現状と課題を踏まえた地域振興のあり方、地域の将来像の検討
	第3回	テーマ:将来像を実現させるための取組及び実施体制

(3) 検討対象区域

城原川ダム建設予定地周辺及び城原川ダム上流域。地域振興の施策については、神埼市全域あるいは城 原川ダム流域等、城原川ダムの効果が及ぶ範囲を包括的に念頭に置いて地域活性化に向けた取組みを柔軟 に展開していくこととする(図 3-4 城原川流域図参照)。



図 3-3:城原川ダム建設予定地周辺地域(再掲)



図 3-4:城原川流域図 (再掲)

3-3-2 住民ワークショップの結果

(1) 城原川ダム周辺地域及び上流部の『魅力』(第1回ワークショップ)

城原川ダム周辺地域及び上流部の『魅力』についての主な意見は以下の通りである。

表 3-6 城原川ダム周辺地域及び上流部の地域の魅力

分類		主な	意見
	自然環境	・脊振山系の自然環境、緑多き自然 ・ダム上流域の自然が美しい ・四季が感じられる自然	・仁比山地区の自然観光等 ・森林資源をはじめとする水や空気など全 体的に自然が良い
	森林・植生	・上流の桜街道、もみじ、シャクナゲ、菜の 花の景色・薬草もより多く自生している	・森林資源が豊かである ・脊振の森林を大切する気持ちは今後も重 要
自然・ 景観	河川・水	・水資源が豊か ・水がきれい(地下水利用・花崗岩) ・山林が多く水資源	・川の水が綺麗、川や水など自然が心を癒す
	畑・ 土壌(農地)	・土壌が良い(農地にとって)	・季節で色彩変わる段々畑
	空気	・空気がきれい	
	景観	・昔ながらの日本の風景や人が脊振地区に ある ・豊かな自然による景観	
歴史・文化	歴史資源	・九年庵、仁比山神社 ・広滝第一発電所(レンガの水力発電所) ・山頂・水の神・滝ノ池、三大明神 ・扇のかなめ・仁比山神社・八天神社・原風 景	・脊振神社・宗像、伊東玄朴・城原川の三段滝・眼鏡橋・政所など歴史ある土地・野越しの意義・栄西禅師の歴史
	文化 (行催事 等)	・宝光寺・山寺のひな祭り	・かかし祭り
観光資源	亰	・仁比山のもみじの湯	・水車
عللد جاج	特産品	・そうめん、岩屋うどん	・ジビエ (獣肉)
産業	農作物	・米、柿、こんにゃく、しいたけ、野菜類等	・脊振の特産物を大切にしている姿勢
道路・交通		・市街地に近いダム ・交通の便・道路網が良い	・福岡市内へのアクセスが良い
防災・防犯		・治安が良い	
コミュニティ		・人・地域のつながりが強い ・人情味がある ・当初からの脊振の居住者の歴史的感覚と 移住者の新たな考え方を融合したコミュ ニティの形成による新たな創造が可能	・人との関わり合いがスムーズ・住民の人間性が良い・地域でしっかり子供たち1人1人の事を 知って寄り添い見守っている・子供たちが素直
エネルギー		・エネルギー資源が豊富 ・バイオマス(潜在的供給力:薪)	・小水力・発電

(2) 城原川ダム周辺地域及び上流部の『課題』(第1回ワークショップ)

城原川ダム周辺地域及び上流部の『課題』についての主な意見は以下の通りである。

表 3-6 城原川ダム周辺地域及び上流部の地域の課題

	 分類	表 3-6 城原川ダム周辺地域及び上流主な	
力比 目	自然環境	・ダム完成後の自然崩壊の危険性	
自然·景 観	獣害	・害獣対策 (イノシシ・アナグマなどの農作 物被害)	・流水ダムは水を貯めず管理もできない為、 イノシシ等が集結する
産業	農作物	・下流水田に対して水資源の利用料金が発生の有無	・農地や農業用水の確保
	雇用	・企業が少ない、町内就労の場の確保	・農業後継者の確保(倉谷柿の生産者も減 少)
道路・交	道路	・道路の幅員が狭い・工事用道路の位置・道路は学生通学路を兼ねているため道路が狭く危険である	・道路が1本しかなく、緊急時の地域の孤立 や渋滞の発生・ダム工事に伴う道路(生活道路)の対応が 不明
通	交通	・交通アクセスが悪い・高齢になった際の交通に不便・路線バスの廃止	・車が無いと買い物や遊びに行けない ・通学時の工事用車両による騒音
購買	買物	・買い物が困る(脊振地区唯一の商店も閉 店)	・買い物は宅配か車で移動しないと対応で きない
	食事	・脊振町内で飲食できる店が少ない	
防災・防犯		・自然災害への不安 ・ダム整備後に河畔の崩落や土砂崩れが起 こらないか心配 (広島の事例) ・花崗岩地質のため土砂災害が不安	・山林や竹林の荒廃 ・提体の補強 ・流水型ダムの効果への信憑性が不明 ・大雨時下流の水の流れが変わるのか
コミュニティ		・若い人が自由に意見を言う環境に乏しい	・周辺地域との連携の必要性
公園・遊べる場所		・公園少ない	・子供から大人を含め、町内で遊べる場所が 少ない
	人口減少	・急激な人口減少 ・ダム建設が過疎化対策になるかどうか疑 問	・担手不足、若者が少ない・人が居なく活気が少ない
少子 高齢化	空き家	・空き家が多い	
12,410	学校教育	・脊振ならではの自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育(例:小規模特認校) の必要性	・少子化による学校のあり方・通学手段 ・廃校の懸念
情報 共有・交	情報発信・ 説明不足	・ダム建設に関して、水没地域には説明があるが、それ以外の地域への説明がない ・危機感の共有の必要性	・ダム建設を契機とした地域の見つめ直し の機運づくり・住民と行政の温度差を感じる
流	交流	・下流域も含めた地域振興を意識する仕掛 けづくり	・下流受益地・住民への感謝の意識
その他		・課題解決や魅力向上のためのまちづくりの実施体制が不明・流水型では上流地域にメリットなし・魅力をできるだけ残せるか	・ダム建設あえて生かそうとしなくてよい・あまりダムに関心がない

(3) 魅力的な所にするための工夫(第2回ワークショップ)

地域の魅力を踏まえ、『魅力的な所にするための工夫』についての主な意見は以下の通りである。

表 3-8 魅力的な所にするための工夫の意見

分類		表 3-6 MEZIPIGINIC 9 るための工人の息兄 主な意見	
自 然	自然環境	・四季の移り変わりの活用 ・自然が魅力⇔災害が多い ・自然と触れ合える公園の整備	
景観	森林· 植生	 ・ドウダンツツジ(脊振山頂部)の保全 ・桜街道 ・自然を活かしたまちづくり(その土地の自然を育てる) ・森林の整備と保全 ・森林の整備と保全 ・森林の整備と保全 ・森林の整備を保全 ・森林の整備を保全 ・森林の整備を保全 	(フォレ
	河川・水	・地下水は神埼市の歴史・文化を築いてきた ・清流環境の活用(清流使ってわさびの 重要な資源	栽培)
	生物	・清流に住む魚の保全(サンショウオ)・ホタルの生息環境の保全(アシ・カワ	'ニナ)
	畑・ 土壌(農地)	・余った畑地などを貸農園としての活用・貸し農園	
歴史・文化	歴史資源	・個別資源の活用(広滝神社、脊振山頂、眼・資源の活かし方を学ぶ、勉強会の開催 鏡橋、脊振の白蛇(脊振神社)) ・歴史資源としてもっと PR するべき (・日本一の石の門、水力発電+水路石積 社、鳥羽院の文化財、栄西の碑) ・歴史を活かした町づくり ・神埼市の歴史を語れるような一つの物 ・パワースポットとしての売り出し って地域の魅力を PR ・ダム水源地域及び上流域の歴史をまとめる・栄西禅師の歴史は古くこの歴史を広め ・森林公園の中の茶室を作り、脊振の自然を体感しながら歴史を知る	(脊振神)語を作
————— 観 光	歴史資源の活	・歴史の繋がりで観光コースを作る(脊振→・仁比山の豚中溶液を活用した上海域へ	のつな
<u>光</u>	歴史資源の沿用・ コース整備	神埼→千代田)	·v))/a
	体験活動・ 野外活動	・高取山ドックランで利用客増加 ・自然をフィールドとした「体験型観光の拠・地域住民による昔の遊びの提供 ・以前あった「屋根のない美術館」計画 ・株式会社スノーピークと提携してキャンプ・バイク) 場を開設・運営する	
	魅力ある 観光資源の整備	・小電力を使ったイルミネーション、ライト アップ ・木造の音楽ドーム作りたい・オ造の音楽ドーム作りたい・ダムの上に「夢のかけ橋」(岩屋〜井_	上製麺)
	全般	・子供を集めるための方法・近場に人が寄るスポットをつくる	
産業	特産品	・地域ブランドの確立(井上製麺を地域ブランド)	
*	農作物	・小渕 水車の里・振興会の水車による玄米の 精米回数を増やす(水車の整備)	用
道路・交通		・道路の整備(トンネル開通、利便性向上、・観光タクシー・デマンド交通にて神埼 幅員改善) 水源地域への周遊観光	市から
イコミ	人・組織	・組織強化(担い手) ・100円宅地を広めて移住者を募る ・人なつっこさ ・交流人口を増やす	
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	教育	・脊振ならではの自然や歴史を活かした特色・自然の良さを市内の子供達に伝える や魅力ある学校教育(例:小規模特認校)・地域住民による昔の遊びの提供	
福祉		・脊振に大きな病院を作る	
エ ネ	木材	・廃材の活用	
ネルギ	水資源	・水力発電の活用(小水力発電・エネルギー・水車による水力発電 (SDG s にも関連し対策)	た取り
	大都市へ	・FM を使った情報発信・案内看板の設置	
情 報 発 信	市内へ	・城原川の水源地における情報共有 ・水没地域だけでなく神埼市内全体に対 ・神埼市全体での情報、誇りの共有 報発信が必要 ・水没地域の住民の先例地見学 ・発信力の強化	ける情

(4) 課題を解決するための方法(第2回ワークショップ)

地域の課題を踏まえ、『課題を解決するための方法』についての主な意見は以下の通りである。

表 3-9 課題を解決するための方法に対する意見

	分類	主な	意見
道路· 交通	道路	・大型車が通行できる広い道路整備 ・安全対策 ・観光しやすい、歩きやすい、通りたいと思える幅員の確保 ・市内外からのアクセス向上 ・南北の幹線道路を整備	・登山鉄道などの観光資源を創造 ・周辺地域から人を集める工夫が必要 ・ヘリポート場の整備 ・ロープウェイ、モノレールの整備 ・高取山にケーブルカーを設置
	交通	・公共交通等の情報共有	・中心地へのアクセス改善
購買	買物・食事	・商業施設も入った複合庁舎の整備(買物・ 食事機能追加・脊振地区唯一の商店も閉 店) ・コンビニ (24 時間でなくてよい、ファミリ ーマートは過疎地に協力的)	・ドローンタクシーを使って買い物(ドローンで宅配)・路線バスのトランクに品物を積んで配達・販売
	商売	・商売上手・PR 不足	
	特産品	・特産品を収集する仕組みの構築 (高齢化の ため出品が難しい)	・伽羅(きゃら)柿など在来品種の活用
	農業	・農業用水の確保	
産業	雇用	・生産人口が少ない・移住者等に対する農家への転換支援・雇用を増やす・雇用の場や店を増加させて昼間の人口を 増加	・自然の中で仕事をすることも魅力的である=企業誘致、昼間人口を増やす・水資源を活用する企業誘致(過去にサントリー誘致の可能性があった)
観光資源		・流水型ダムを活用した上流域に対する親水公園・レトロなバス	・公共施設、宿泊施設の充実・登山鉄道などの観光資源を創造
コミュニティ		・集落の情報共有・中・高校生や大学生だけ(若者)のグループで話し合い	・市と市民間の情報共有(ダムの情報が不明、風通しの良い体制)・コミュニティの形成
	自然環境	・ダム完成後の自然崩壊の危険性	・自然を活かしたまちづくり
自然• 景観	獣害	・獣害であるイノシシやサルを観光資源の 一つと捉え、イノシシ園、イノシシカレー・ 鍋などを振る舞う	
少子高齢化	人口減少 一 一 空き家	・地元出身の人を都会から呼び戻す ・若者や移住者の受入れ ・移住・定住を促進するための宅地をつくる (100 円宅地) ・ダム周辺の宅地造成、集団移転先を地域内 に計画 ・ネット基地局を作り、IT 企業の進出やネ ット通信を駆使した在宅勤務が可能な環 境を作る ・空家の活用	・静かな環境を活かし、都会でなくても働ける仕事(ITなど)の環境整備 ・「脊振≠遠い、山の中」という概念の払拭・芸術村 ・他地域(都市部や田舎)との交流・意見交換 ・他地域や居住者にヒアリングし、脊振の地域振興に活用
情報共有	学校教育 情報発信· 説明不足	特別学校の誘致(例:小規模特認校)・危機感の共有	・情報不足による説明会の開催
・交流	交流	・上下流交流を持つためのつながり	

(5) 目指すべき将来像とその方針(第2回及び第3回ワークショップ)

地域の魅力の活用と課題の解決方法を踏まえ、『目指すべき将来像』とそれを実現するための『方針(キーワード)』の主な意見は以下のとおりである。

表 3-10 『目指すべき将来像』とそれを実現するための『方針 (キーワード)』

班	将来像	方針(キー	-ワード)
A	・水を使った観光交流・循環型地 域	・水を使った観光の活性化 ・小さな拠点つくり ・特産品・農作物	・雇用を生み出す ・健康 ・人材育成
В	・10 年後は3世代が暮らせる町だったらいいな・水と共にある町だったらいいな	・豊かな自然 ・誇れる文化・歴史 ・観光	・情報発信 ・事業継承
С	・自然を生かした安らぎの町	・活用できるように自然保護 ・人財の確保	・自然体験ができる場所の整備
D	・にぎわいのある町	・賑わいのあるまち・若い人、子供が集まるまち	・利便性・交通面がよい ・雇用の場が充実している
E	・地元資源の活用・発掘・移住・定住・関係人口の増加	・定住(買い物や交通など生活面の 利便性) ・官⇔民・民⇔民の風通しの良いコ ミュニティ(ダムに関する情報不 足) ・昼間人口の増加(企業誘致など) ・アクセス	・夢がある・自然

(6) 将来像を実現させるための取組及び実施体制(抜粋)(第2回及び第3回ワークショップ)

目指すべき将来像を実現させるための方針に対する具体的な『取組』とその取組の『実施体制』の主な 意見は以下のとおりである。

表 3-11 方針に対する具体的な『取組』とその取組の『実施体制』

将来の方針	具体的な取り組み	実施体制
水を使った観光	・歴史を活用した勉強会	住民・関係団体
小さな拠点づくり	・集落活動センターへの視察	各団体との連携
観光	・観光コース(神埼市全体の観光の連携、観光コースづくり)	行政
情報発信	・地元のインフルエンサー育成	各団体との連携
活用できるように 自然保護	・体験拠点を考慮した整備・必要な自然を残す	ダム周辺整備事業
人材の確保	・人材ネットワークの確立(間伐指導や昔遊びなど、住民ができることを分野ごとに分けて登録)	住民・関係団体
にぎわいのある町	・空き家対策(空き家の整理、移住者のために改築)	行政
若い人、子供が 集まるまち	・若い人が主体となった団体を発足させ、同年齢の加入者の 増加を見込む	各団体との連携

3-4 神埼市水源地域振興フォーラム

(1) 神埼市水源地域振興フォーラムの目的

城原川ダム建設に伴う地域振興計画については、水源地域の生産機能及び生活環境の現状と課題を踏まえ、持続性のある地域コミュニティの維持を目指した振興施策を地域と行政が協働でつくりあげる必要がある。

そのため、本フォーラムでは、市民の方への城原川ダム建設に伴う地域振興対策についての情報発信及 び城原川水源地域における地域活性化への機運を高め、今後における水源地域振興計画の策定に反映する ことを目的として実施した。

(2) 神埼市水源地域振興フォーラムの目的の概要

神埼市水源地域振興フォーラムの概要は以下の通りである。

表 3-12 神埼市水源地域振興フォーラムの概要

区分		概要
フォーラム名		神埼市水源地域振興フォーラム
		~地域が目指す将来像に向けて これからの地域づくりを考えよう~
開催日時		令和2年12月20日(日) 14:00~16:40 (開場13:30)
プログラム		基調講演、事例報告会、意見交換会
	基調講演	テーマ:水源地域における持続性のある地域活性化の実現について~「ここで暮らし続
		けたい」の思いをつなぐ~
		・NPO 法人ひろしまね 理事長 安藤 周治 氏
	事例報告会	テーマ:近隣地域における地域振興先例地3団体による活動事例報告
		・合同会社東峰村ツーリズム協会 会長 小野 豊徳 氏
		・森の香 菖蒲ご膳 西 要子 氏
•一般社団法人神水川公園協議会 理事 重田 秀己 氏		·一般社団法人神水川公園協議会 理事 重田 秀己 氏
	意見交換会	テーマ:水源地域振興に関する意見交換会 (パネルディスカッション)
		・コーディネーター:神埼市水源地域振興対策委員会委員長 五十嵐勉氏
		・パネリスト:神埼市長、基調講演者、事例報告者
開催場所		神埼市中央公民館
主催/共催		神埼市水源地域振興対策検討委員会/神埼市

(3) フォーラム告知方法

右図の開催案内のチラシを作成し シ全戸配布及び市HPに掲載して集った。



第4章 現状と課題の整理

代表的な現状と課題は以下の通りです。これらを踏まえ、水源地域振興計画の立案が求められます。

代表的な現状と課題

◆人口

- ・神埼市、ダム水源地域ともに人口が減少している。特に、水源地域の方が人口の減少率が大きく、それに伴い少子高齢化が進んでいる。
- ・将来予測では、ダム水源地域において 2045 (令和 27) 年までに 2/3 から半数以上人口が減少する推計結果となっておりダム水源地域の生活機能・集落機能の確保が懸念される。

◆人口誘致策

人口 動態

- ・1996(平成8)年から取り組んだ宅地造成事業(通称100円宅地)では、人口減少に歯止めをかけた。
- ・空き家・空き地情報登録制度や、定住促進住宅取得補助金など、空き家対策や定住促進対策を展開している。水源地域では、空き家・空き地情報登録制度への空き家登録が無く、空き家を希望されている方とのマッチングまでは至っていない。
- ⇒地域の特性を生かした産業の振興を図り、さらに企業誘致や空き家対策等の定住施策を積極的に推進 し、住民の定住化と永住者の受入れなどを図りながら、暮らしやすい地域づくりのための対策を講じ る必要がある。
- ⇒空き家対策では空き家は存在するものの、貸出に対しての抵抗感や、所有者に対する支援等を図って いく必要がある。
- ⇒本問題は全国共通の問題であることから、空き家対策等の定住促進に加え、交流人口・関係人口の拡大を目指した地域振興が求められる。

◆道路

- ・神埼市から城原川ダム水源地域、脊振町など市を縦断する県道 21 号線が整備されている。ダム工事 により将来的には付替道路が整備される。
- ・急峻な地形を縦断していくため、道路の曲線部が多く、歩道が整備されていない箇所も多い。住民アンケート結果からは、ダム工事により大型車両の交通量が増えることでの危険性が高まること、県道の歩道整備、道路の幅員拡幅、冬道対策等、道路整備に対する住民の意見が多く上がっている。

◆交通(自動車・バス)

- ・地域内では交通の便が不便であるといった意見も挙がっており、高齢化が進行する中で自動車の運転 が不可欠な状況となっている。
- ・三瀬神埼線路線バス及び脊振町通学バスの運行が2020(令和2)年3月末で廃止されたことを受け、2020(令和2)年4月1日からデマンドタクシーによる新たな運行が実施されている。

基盤 整備

・住民アンケート結果からは、通勤・通学や買い物、通院等において、車がないと動けないという状況であり、バスの運行本数の増便など公共交通機関の整備に関する意見が挙がっている。

◆公共施設

- ・2020 (令和 2) 年 5 月に「小さな拠点」の役割も含めた脊振交流センターの一部が開庁し、市民サービスのワンストップ化、情報提供の場、市民参画の場等が期待されている。また、市民の憩いや賑わいの創出にも貢献し、脊振町の拠点となることを目指している。
- ⇒ダム工事に伴い、県道 21 号線の安全対策が求められる。また、付替道路の整備によるダムや脊振町 へのアクセス性の向上が期待されている。
- ⇒交通基盤の整備による市内や市外の他地域との交流・連携が、人口の流入、産業の活性化、観光振興 に寄与することが見込まれている。また脊振町では、地域の核となる拠点をつくる(=小さな拠点づ くり)ことで、より集約的かつ効率的な市民サービスの提供及び市民の満足度向上につながることが 期待されている。

代表的な現状と課題

◆地形

- ・城原川上流部は、急峻な山間地を流れ、渓流環境を形成している。山地部ではスギ植林や部分的に分 布するアラカシ等により森林が形成されている。
- ・上流部は急峻な山間部で、中・下流部には広大な平野と市街地が広がっている。また、上流部は川幅 が狭く、流れも速いのに対し、河口に近づくに従い、川幅は広くなり、流れもゆったりとしていく。

自然 環境

- ・城原川上流の脊振山は佐賀県立自然公園に指定されており自然豊かな地域であり、様々な自然資源を 有しており、一部は住民団体により管理されている。
- ⇒上流部は人工林が多く、適正な間伐を図りながら、混交林化が求められる。
- ⇒住民アンケートでは、自然環境が良いと評価されている。一方、洪水等の多い地域であることから、 自然災害の不安や、土砂災害の危険性も高い地域ある(土砂災害特別警戒区域に指定、花崗岩地質の ため土砂災害への不安)。
- ⇒上流部は急峻な地形であることから、公園が少ないことがあげられている。

◆歴史 · 観光

- ・脊振山などの自然や各種観光スポットを有している。
- ・地域資源として、九年庵、伊東玄朴旧宅、仁比山神社の御田舞、二子遺跡等、高取山公園がある。ま た、城原川岸の桜街道、日の隈、仁比山公園は、市民の憩いのスポットとなっている。
- ・治水の歴史として、政所や野越などの土地や治水に関する資源もあげられている。

• 観

歴史|・神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、脊振町の「わんぱくまつり」は、地域の特性を活かした恒 例の一大イベントとなっている。

光振 ◆特産品販売

- 興
- ・高取山公園に市営の農産物直売所があり、一つの立ち寄りポイントになっている。また、民間の農作 物直売所に加え、岩政地区で2020(令和2)年10月から隔週で臨時の直売所が開設されている。
- ⇒観光資源やイベントなど、既存の観光振興のための要素が数多く挙げられている。その反面、観光資 源の再評価や発掘、水源地域の歴史・水文化との結びつきや、観光振興のための人材育成、集客につ ながるPRなど、観光振興における開拓・改善の余地も大いに残されている。
- ⇒直売所は複数開設されている反面、生産者の高齢化に伴い、自宅から直売所までの出荷に課題を有し ている。

◆農業

- ・しいたけ、干し柿、高冷地野菜などが栽培されている。しかし、平坦な地域がないことやイノシシ被 害により兼業農家が大半となっている。
- ・神埼市では、「地域ブランド」の育成・強化を図り、地域の売上や雇用の拡大、地域経済の好循環につ なげるため、地域資源を活用した商品・サービス群を特定し、「ふるさと名物応援宣言」を行ってお り、しいたけなどが登録されている。

産業

◆林業

振興

- ・外国産材の輸入等により国産材の需要が減少し、木材価格が下がっている。また、林業の振興は、生 産基盤である林道の開設、改良、舗装を重点事業として進めている。
- ⇒脊振町の産業構造は、第一次産業就業人口比率が 26.0% 2005 (平成 17) 年と高く、兼業農家が大半 となっている。農林業とも後継者不足や兼業化が進んでおり、雇用確保のための施策が必要となって いる。
- ⇒農作物を特産品として売り出すためには生産量不足が課題となっている。また、地域振興を図るため、 新たな特産品として高付加価値のブランド化、販路拡大が求められる。

代表的な現状と課題

◆保健・福祉・医療体制

- ・福祉サービスの提供や福祉施設の設置など、福祉施策の推進が課題となっている。
- ・2021(令和 3)年 3 月に「脊振交流センター」の診療所が開設し、旧脊振公民館跡地に整備していた 診療所が、リニューアルしている。

◆買い物

- ・人口減少や少子高齢化が進行している。それに伴い、食料品や日用品など生活必需品を提供し、地域 交流の場でもあった商店や食堂などが撤退するなど、暮らしの維持に必要な機能が徐々に失われてき ている。
- ・住民アンケート結果から、食料や日用品の買い物における満足度が低い。特に、ダム上流域における 住民の満足度が低くなっている。満足度が低い理由には、スーパーやコンビニエンスストア等の商店 がないことや、近隣に商店がないため交通弱者にとって買い物は困難であるといった理由が挙がって いる。

生活 | ◆子育て・教育環境

環境

- ・友好姉妹都市締結による国際交流事業を推進している。
- ・脊振小中学校は、特認校制度を受けている。小規模化が進む学校について、学校の活性化を図ること を目的として、通学区域外からの入学・転入学を認める制度である。
- ・自然豊かな環境に恵まれ、少人数によるきめ細かな指導が行われている。また、「脊振まるごと大運動 会」のように、学校と地域が連携して行事を行うなど、子どもにとって豊かな経験に繋がっている。
- ・2011(平成23)年度から、小学3・4年、中学1年生を対象とした「ふるさと学習」を展開しており、 子どもたちがふるさとを愛する心を醸成する取り組みが行われている。
- ⇒少子高齢化が進む当該地域で、高齢者を支援していくための若年層の確保が課題となっている。若年 層にとって魅力的な地域となるための教育、医療、福祉などの総合的なサービスの充実が必要となっ ている。
- ⇒小売業等の企業の誘致、直売所の地場産品の出品数の増加、売所設置等、商店を増やす検討が必要で ある。また、交通弱者の買い物が制限されない交通の利便性向上などの対策が求められる。
- ⇒人口減少化における学校の維持管理や、交流人口増加を目的とした上下流交流、体験学習の展開が求 められる。

◆ダム建設

・城原川ダム建設は、2018(平成30)年に「建設段階」に移行され、ダム堤体整備のための調査が進めら れている。

情報 発信

- ・住民アンケート結果では、ダム建設に関する住民説明が不足しているという意見が多く上げられてい る。また、ダム上流域、ダム周辺、ダム下流域の居住地域によって、ダム建設に関心事項が異なって いる。例えば、ダム下流域は城原川の洪水に対するダムの役割、ダム周辺はダム建設計画の概要・ダ ム事業の進歩状況などである。
- ⇒神埼市の HP や広報紙により、ダム建設の状況は広報されているものの、関心事項を踏まえ、ダム建 設の概要や計画、現在の進行状況等、住民に情報提供していく必要がある。
- ⇒ダム建設のみならず、水源地域や神埼市の魅力を広く発信し、交流人口の増加を図っていく必要があ る。

◆コミュニティ

その

少子高齢化に伴い、各集落での生活と安全・安心を守る地域コミュニティ機能も、弱体化が進行して いるとされている。

他

⇒商店がなく、地区でご飯を食べてお酒が飲める場所が少ないため、コミュニケーションが生まれる場 所が少ない。地域振興のためには、地域の住民間、上下流の住民間での意見交換を活発化させていく 必要がある。

第5章 地域の将来像・将来像の方針

5-1 地域の将来像

~ 背振山から城原川下流へ水が育む 持続可能な地域づくり~

定住・交流・関係人口*の増加による生活・集落機能の維持・向上

※関系人口:移主した「定注人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々

<将来像のイメージ>

- 脊振山から城原川下流: 神埼市内での流域連携をイメージしています。 城原川は、その源を佐賀県神埼市(脊振町)の脊振山に発し、途中支川を合わせながら山間部を流下 し、仁比山付近より扇状地形を形成して平野部の神埼市の市街地を南下し、筑後川右支川の佐賀江川 の2.0 km 点に合流しています。城原川は神埼市を縦断し、脊振町、神埼町、千代田町と流れることか ら、上下流交流をイメージしています。
- 水が育む:水の歴史・文化・産業をイメージしています。九年庵、眼鏡橋や広滝第一発電所などの水の歴史・文化、そうめん・うどんなど水を使った特産品や、野越し、政所、下流のクリークなど水に関わるもの、水が育んできたものが多数あることから、育むという文字を用いています。※育友会、教育の「育」でもあります。
- **•持続可能な**: ワークショップで A 班から意見がありましたキーワード。SDGs (「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」) の持続可能の用語です。
- •地域づくり:水源地域振興計画の目的である、地域づくりを入れています。WS でのB班「3世代が暮らせる町」、C班の「安らぎの町」、D班の「賑わいのある町」をイメージしています。
- 定住 交流 関係人口: WS での意見(主に E 班)及び国土交通省でまとめている、「新たな担い手等による今後の水源地域振興のあり方に関する検討会報告書」も参考としています。
- 生活機能・集落機能の確保:少し過激的な表現かもしれないが、対象の水源地域は脊振町一体を含めたエリアであり、過疎地域に指定されています。そのため、移住政策などを図りながら、現状の生活環境や集落機能の維持・向上が求められます。

また、「新たな担い手等による今後の水源地域振興のあり方に関する検討会報告書」の参考としています。

5-2 地域の将来像の方針

方針-1 脊振山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

城原川流域の森林と豊かな水資源は、水源地域の産業と生活を将来にわたり支える基盤であり地域活性 化に活用していく重要な資源となります。また、城原川ダムは治水機能のダムとなることから、水源涵養林 の間伐等による適切な管理、浸水区域の荒廃地化を防ぐ取組みを推進し豊かな水資源の確保や間伐材の有 効利用により、持続可能な地域づくりを目指していきます。

方針-2 歴史資源や水文化を活かしたまちづくり・ネットワークの構築

水源地域や神埼市全域には、多様な歴史文化、水に関わる観光資源(仁比山神社、眼鏡橋、広滝第一発電所)、野越などの治水文化や政所などの歴史ある土地などが多数存在しています。ダム建設を契機に、これらの歴史資源や水文化資源を結び付け、神埼市内・周辺自治体と連携した観光コースの構築、街づくりを行い、都心部からの誘客など交流人口の増加を目指します。

また、民間事業者や周辺のダム等と連携を図りながら、インフラツーリズムなど、新たな着地型観光などの観光レクリエーションも展開していきます。

方針-3 農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

水源地域には、しいたけ、柿、ほうれん草、ピーマン、米(水車米)やジビエなどの多様な農作物・特産品を有しており、複数の直売場にて販売されていますが、さらなる販売促進に向けては農・特産品の地産地消の発展的な展開や、ブランド化を図っていきます。

また、生産者の高齢化に伴い、特産品の出品が減少傾向になりつつあることを踏まえ、出荷及び集荷の構造改革、貸農園等の生産人口の確保を目指していきます。

方針-4 まちの働く場づくり、安らげる住環境の整備及び教育環境の支援

水源地域の脊振町は過疎地域に指定されるなど、人口減少が進んでいる状況です。多くの水源地域では、 過疎化・高齢化が急速に進行していることを踏まえ、水源地域の活性化に向けては、人口減少においての移 住政策や就業支援を図りながら、定住人口を増やして集落機能の維持を図る必要があります。

また、交流活動や教育環境への支援を行い、定住人口の確保を高めるとともに、観光に来られる「交流 人口」や、新たな担い手の確保として地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の増加を図りながら、 地域のコミュニティや愛着を高めていき、安らげる住環境を保持していきます。

方針-5 わかりやすい情報発信、世代や地域を超えた上下流交流の促進

城原川ダムの整備については、平成30年より「建設段階」へ移行し、建設事業に着手していますが、ダム事業が完成するまで長期間を要します。また振興計画の推進にあたり、多様な主体の参画と協働が求められることから、ダム建設の目的及び工事の進捗状況、振興計画の施策の内容など、地域住民に対してわかりやすい情報を発信し、理解を深めていきます。

また、小・中学校の学校教育及び生涯学習の一環、水源地域のみならず神埼市内全域(城原川上下流) や周辺自治体、また、都市部も含めた地域の交流を活発化します。

方針-共通 地域振興計画の推進体制の構築(交流・推進)

地域振興計画を推進するためには、市・県・国などの行政だけでなく、地域住民、活動団体・関連団体など、多様な主体の参画と協働によって推進することが求められます。将来像の達成のためには、新たな担い手の確保や組織作りを行いながら、持続的に維持・発展させていくことが必要です。

また、自然・歴史資源の保全と活用、農・特産品の開発・販売などにより、水源地域の活性化が図られ、新たな資金と人材を生み出す好循環の仕組みを作っていくことが重要となります。

そのためには、多様な主体の参画と協働による組織、補助金ではなくふるさと納税・クラウドファンディングなど自主的な資金確保など、自走できる推進体制を構築します。

方針共通:地域振興計画の推進体制の構築(交流・推進)

方針4

まちの働く場づくり、安らげる住環境の整備及び教育環境の支援

方針 1

脊振山系の豊かな自然環境の保全、水資源の活用

方針2

歴史資源や水文化を活かし たまちづくり・ネットワー クの構築

方針3

農・特産品の魅力創出、新たな魅力の発掘・開発

方針5

わかりやすい情報発信、世代や地域を超えた上下流交流の促進

図 5-1 地域の将来像の